

令和6年度

松山看護専門学校 学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、松山看護専門学校の令和6年度自己点検・自己評価報告書に対する学校関係者評価委員からの意見を取りまとめたものである。

令和7年8月8日

学校関係者評価委員

委員長 渥見 秀夫

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の基本方針

本校の自己点検・自己評価活動は、厚生労働省が示す「看護師等養成所自己点検・自己評価指針」に則り、9 カテゴリー・43 下位項目・125 評価項目にわたり、全方位的に原則として3年周期で行う「学校関係者評価」と、当該年度の学校運営目標に対して行う「学校関係者評価」があり、本報告書は後者によるものである。

3 学校関係者評価のポイント

- 1) 自己評価結果の内容の適切性
- 2) 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策の適切性
- 3) 学校の重点目標や評価項目等の適切性
- 4) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みの適切性

4 学校関係者評価委員名簿

種 別	氏 名	所 属
関係業界	渥見 秀夫（委員長）	聖カタリナ学園高等学校前校長
〃	山本 泰士	愛媛県社会福祉協議会常務理事
地域有識者	正岡 いづみ	松山市番町公民館館長
保護者	吉澤 里美	老人保健施設ミネルワ看護師長
卒業生	西岡 芳記	愛媛大学医学部附属病院看護師

【令和5年度の主な改善提案への学校の対応とそれに対する評価】

1 改善提案

- 1) 看護師国家試験合格率 100%は非常に高く評価できるものであり、今後も継続し、物理的・心理的に安全な環境を提供して、来年度も目標を達成してもらいたい。
- 2) 受験を呼びかける対象者の生活様式や情報入手手段を勘案して、SNS等を活用した活動を検討されてはどうか。
- 3) 中長期的に、全国的な人口動態・学生動態や看護環境を視野に入れ、加速化する少子高学歴化に対応すべく、教職員の生活防衛を最優先事項に据えて、将来構想を練り上げてもらいたい。

2 令和6年度の学校の取り組み

学校関係者評価報告書を踏まえ、令和6年度は令和5年度に引き続き、質・量ともに安定した学生の確保のほか、看護師国家試験の全員合格、SNS等を活用した広報活動、看護学校将来構想の検討等について取り組んだ。

まず、学生の確保については、少子高学歴化、大学全入時代等の影響を受け、松山市内に私立看護大学2校が開学した平成29年度以降、非常に厳しい状況になっており、令和5年度は、第1看護学科の入学者が開設以降初めて定員割れの36人となった。こうした危機的状況を踏まえ、令和6年度の入学試験において新たに総合型選抜入学試験を導入した結果、令和7年度の入学者について、定員を上回る42人を確保することが出来た。

次に、看護師国家試験については、令和6年度全国平均合格率が90.1%に対し、第1看護学科第16期生新卒38人全員が合格となった。第1看護学科では、教員が年間計画と個別指導計画の進捗状況を毎月の教務会議で情報共有し、必要時には修正しながら支援するとともに、特に、教員が必要と認めた学生については個別指導を実施した。更に、クラス全体で体調管理・時間管理に努め、感染症予防に留意しながら、共同学習体制を定着させていった成果と考えられる。

次に、SNS等を活用した広報活動については、令和7年度予算にInstagramの開設やゆるキャラを使用した広報活動に必要な経費を計上したところである。

更に、看護学校将来構想の検討については、松山市医師会主導による「看護専門学校将来構想検討委員会」を令和6年12月4日に開催し、各学科の学生数変動シミュレーションによる収支変動等について情報共有を行うとともに、今後の具体的対策として、奨学金制度や医師会支援について、当委員会で引き続き研究・検討することとなった。また、3学科再編に関する先進事例を研究するため、令和6年5月9日に福山市医師会看護専門学校を学校長以下で訪問した。

【総評】

学校関係者評価委員全員が一堂に会し、学校側からの自己点検・自己評価報告書の説明を踏まえ、意見交換をすることができた。以下、各委員による評価を委員長の実任において集約したものである。

まず、前年度に引き続き、新卒者の看護師国家試験合格率 100%を達成したことについては、業者模試とは別に、教員が作成する校内模試とその解説を取り入れることにより、丸暗記ではなく根拠を理解した確実な知識と技能の定着を図る教育方針や授業内容の成果であると、非常に高く評価できる。今後とも、この方針等を継続するとともに、物理的環境の整備や心理的支援にも一層取り組んでもらいたい。

次に、令和 6 年度の第 1 看護学科の入学生について、平成 19 年度の開設以降初めて定員割れの 36 人であったことを踏まえ、総合型選抜入学試験の導入という入試制度見直しの大改革を断行したことは時宜を得た適切な対応であると評価できる。今後とも、時代の趨勢に即応した入試制度の見直しを柔軟に検討していく必要があると考えられる。

また、長期的な人口減少や若者流出、他の看護師養成機関との競争激化などを受け、学生確保はますます困難を極めているが、松山市において 3 年課程専門学校のニーズは間違いなくあると思われる。その情報発信について、学校訪問やオープンキャンパスなどによる従来型の広報活動に加え、新年度に向け Instagram の開設やゆるキャラを使用した広報活動を検討されており、大いに期待するものである。その際、国家試験合格率 100%のほか、医師会立の専門学校であるため、講師や臨地実習施設が豊富で充実していることなどを強調してもらいたい。

更に、将来構想については、看護を取り巻く大状況とともに地域の大学看護学科や五年一貫校などの動向の小状況も注視しつつ、エッセンシャルワークとしての看護の重要性と本校の独自性をより鮮明にできる将来構想が求められる。学生数に応じた学校規模での質の高い教育の維持・向上をめざしてもらいたい。

【学校関係者評価】

- 1) 看護師国家試験合格率 100%は非常に高く評価できるものであり、今後も教育方針等を継続し、物理的環境の整備や心理的支援にも取り組み、来年度も目標を達成してもらいたい。
- 2) 学生の確保について、従来型の広報活動に加え、SNS (Instagram) 等を活用した広報活動を積極的に実施してもらいたい。
- 3) 看護を取り巻く大状況とともに地域の大学看護学科や五年一貫校などの動向の小状況も注視しつつ、エッセンシャルワークとしての看護の重要性と本校の独自性をより鮮明にできる将来構想が求められる。学生数に応じた学校規模での質の高い教育の維持・向上をめざしてもらいたい。

【運営目標別評価意見】

(目標)

I 教育成果の向上

1 国家試験対策の充実を図り、看護師国家試験合格率 100%を目指す。

- 計画的な対策により好結果を継続できていることは非常に高く評価できる。
- 新卒国家試験合格率 100%達成や、成績低迷者への個別支援強化を継続する一方で、物理的環境の調整や心理的支援にも一層取り組んでいただきたい。
- 前年度に続き、試験合格率 100%の達成は、令和 4 年度から取り入れている国試前 2 か月の校内模試。また丸暗記ではなく根拠のわかった確実な知識と技能の定着を図る教育方針や授業内容は十分な成果となっているとともに、教員が必要と認めた学生に対して行っている個別指導もその成果が十分現れているものと思う。
- 学習方法については十分な振り返りがされており、学内学習と臨地実習の学びの統合性が十分にできている。また、学生の学びの意欲向上もされている。
- 学生は国家試験前になると不安やプレッシャーで心理的に不安定になる時があると思われることから、学習面はもちろん、学生一人一人の心理面のフォローも継続して実施してもらいたい。

(目標)

I 教育成果の向上

2 新カリキュラムを運用する。

- 非常勤講師や学生の意見も参考にして課題を明確にしようとする姿勢は評価できる。
- 課題にあるように、系統立てた学年評価を行うことにより、成果の向上につながるよう期待している。
- 新カリキュラムについては、見てこんけん実習以外は、その評価が難しい・分かりにくいように思う。カリキュラムに課題があるのか、評価方法に課題があるのかは分からないが、課題を明確にしてみることが必要ではないか。
- 臨地実習でもコミュニケーションについては的確に実践できる状況ではないが、グループワーク、ディスカッション等の機会を増やすことで経験値の向上になると思う。
- 各学年カリキュラムの課題は明確になっており、教員の中で現在の状況を把握できている。更に、その課題に対して評価・修正・改善を行っており、PDCA サイクルが出来ている事がとても評価できると感じた。

(目標)

I 教育成果の向上

3 学生支援の充実を図り、卒業率90%以上を維持する。

- 学生の学習環境・学習習慣に応じた支援の必要性の認識はきわめて適切であり、今後のさらなる成果が期待される。
- 保護者面談は実施でき、今後も継続予定とのことなので、今後は学生情報の共有と支援の方向性検討にあたって、カウンセリング結果の活用が望まれる。
- 目標を達成していることから、十分な学生支援・学習支援がなされているものと考えられる。学生支援を行うにあたり、教員と学生の信頼関係の構築が重要になってくるため、これまで同様に学生との円滑なコミュニケーションを図っていくことの継続をお願いしたい。
- こまめに学生一人一人と関わりを持ち、不安のない学生生活が送れる関わりがあると思う。学生の思いが実現できる学校であると思う。
- 学生のアンケートにもあるように、担任が熱心に学生に寄り添っていることを今後も継続して行ってほしい。また、継続して教員間での学生情報等の共有を行い、学生に対し温かいまなざしで学習支援の充実を図ってもらいたい。

(目標)

I 教育成果の向上

4 社会人基礎力を育成する。

- 現在の青年層全体の課題。本校において可能な対策としての諸活動は十分に評価できる。
- 今後も、定期的な社会人基礎力セミナー等を企画実施するとともに、評価を行い、今後の対応に活かせるよう継続した取り組みを望んでいる。
- 社会人基礎力の育成・向上のひとつにコミュニケーションスキルの向上があると思う。その内容として、円滑な人間関係づくりにプラスとなるコミュニケーションスキルだけでなく、自分を守るための各種ハラスメント対応や苦情・クレーム対応等、マイナス面に対応する知識や対処等にも十分な時間をかける必要があると思う。
- 第1看護学科においては新卒者が多いことから、気分的に子供意識を強く感じるが、社会人としての最低限のマナーについて、指導していくことは重要であると思う。
- 卒業後の事も見据えて、社会人基礎力セミナーや各学年の課題に応じた教科外活動を実施しているのはとても良いと思う。

(目標)

I 教育成果の向上

5 教員の資質向上を図る。

- 校内外の諸機会の活用は評価できる。授業評価の実効性のある活用がさらに望まれる。
- 授業評価の実施を通じた改善が定着しているものと思われる。課題に掲げられているとおり、様式を改善し一層の向上に努められたい。
- 学年別教育目標到達状況をみると、各学年ほとんどの項目が、学生平均より教員平均の方が低い数値を示しているということは、教員は、教育目標に対する問題意識を強く認識しているから自己評価が学生評価より低くなっているものだと思う。その問題意識や課題解決のための研修制度の充実や自己研鑽に期待したいと思う。
- 教員は、日々学生に対し真摯に向かい合っていると思う。体に気を付けて無理をしないことも大切であり、教員のパワーが無くなれば、学校存続も困難となる。
- 熱心に学生に寄り添ってくれる教員の存在は、松山看護専門学校の強み一つでもある。多忙であると思うが、継続して学校内外の研修で学んだことを学生に還元し、今後も手厚いサポートと親身な関わりをお願いしたい。

(目標)

II 学校運営の安定

1 質・量ともに安定した学生確保に努める。(受験倍率3倍)

- 厳しい状況下での、入試見直しの大改革からマスコットキャラクター創作の愛らしい工夫までの懸命の努力は高く評価できる。
- 学生確保については対応を要するものの、ふれあい看護体験、オープンキャンパス開催を含め、継続できている事案を最大限活用した広報活動も検討してはどうか。その際SNS利用に長けた学生に大幅に権限委譲するなどの工夫も必要である。
- 令和6年度は定員割れになってしまったが、新たに総合型選抜入学試験を導入し、令和7年度は定員が確保できたように、時代に応じて今後も継続して入学試験方法の見直しを検討していく必要があると思う。また、卒業後3年間くらいの離職率・転職率なども調べて、アピールできる結果があれば大きなセールスポイントになるのではないかと。また、男子学生の増員を図るためのPR方法等も検討してみてはどうか。
- 少子化の影響もあり困難なことと思われるが、看護師の魅力を発信していくこと、現在学習している人たちの生の声を聞く事、卒業生が就業後の魅力を発信することも良いのではないかと。
- 総合型選抜入試や情報発信の1つとしてマスコットキャラクターを作成するなど、様々な取り組みをしており評価できる。松山市で3年課程看護専門学校のニーズのほ

か、高い国家試験合格率と希望施設への就職 100%、講師や臨地実習施設が豊富で充実していることは本校の強みであると思う。この強みをもっと情報発信を行い学生確保に努めてほしい。

(目標)

II 学校運営の安定

2 学びやすい、働きやすい職場環境をつくる。

- 限られたスタッフ数による誠実な激務遂行は評価できる。相互の意思疎通の円滑化を常時心がける職場であり続けてほしい。
- 教務事務との連携による業務の負担軽減において問題となっている人員配置や、学び合うことができる職場風土づくりは、コストと時間を要するため一朝一夕に達成することは困難である。このため、当面は、兼務や IT 機器の導入で対応しながら長期的な課題解決を目指すなど、短・中・長期別計画を立案して実行するなどの取り組みも必要ではないか。
- 学びやすい環境づくりについては、学年別学校生活に関するアンケート結果と課題から読み取れる、授業等の意見要望と施設設備に関する意見要望を、費用対効果も含めバランスよく対応するとともに、可能な限り、意見要望に対する結果や困難理由（学生に対する自助努力も含め）を学生にも伝えていくことも検討してもらいたい。働きやすい職場環境については、有給休暇取得率は、職場環境を考えるうえで分かりやすいバロメーターになるもので、取得率が向上していることはいい傾向と思う。また教務会議の見直し等具体的な改善点も見られ、その課題解決に努めてもらいたい。
- 客観的に松山看護専門学校は学びやすい環境であり、学生の声に耳を傾け、思いに傾聴している環境であると思う。
- teams の活用のほか、授業資料のペーパーレス化や iPad による電子教科書の活用など継続して実施されていることが分かった。業務の効率化を行いながらも、今後とも学生に対して手厚いサポートと親身な関わりをお願いしたい。

(目標)

III 看護学校将来構想

1 第1看護学科の今後の在り方について検討する。

- 看護を取り巻く大状況とともに地域の大学看護学科や五年一貫校などの動向の小状況も注視しつつ、エッセンシャルワークとしての看護の重要性と本校の独自性をより鮮明にできる将来構想が求められる。学生数に応じた学校規模での質の高い教育の維持・向上をめざしたい。
- 把握した看護教育の動向や、アンケートによる学生の意見を基に第1看護学科のあり

方を検討するとともに、教員の意見も聴取し検討に反映してはどうか。

- 市内に5校ある看護学校において、本校の魅力をアピールするには、やはり学生確保、国家試験合格率100%の実績継続を目指すとともに、学生アンケートにも記されているが、就職活動に対するキャリア教育（説明会・ガイダンス）の時期や回数の充実を目指し、安定した就職率を維持していくことが重要かと考える。
- 今の医療、福祉においては地域包括ケアシステムの構築を目指しており、学生時から急性期医療のみではなく、地域医療についても学習し、統合的なアセスメントが行えるような学習に取り組んでもらいたい。
- 学生が思う第1看護学科のあり方や強みと、教員が思うものとは違いが出てくるのではないか。アンケート等で確認を行ない、広報活動に生かすなど課題に挙げている事に取り組んでほしい。